

2020年3月31日

中国での日米中のコールタール、ニードルコークス、カーボンブラック事業の再編

CMI

中国国内がコロナウィルスの対策に追われている中で、早くも、コールタール関連業界の企業再編の動きが活発になった。

2020年2月18日に方大炭素新材料株式会社（以下、方大炭素という）から、非公開で特定者向けに株を発行して得た資金の用途を変更して Koppers（江蘇）炭素化工社の株取得に使用する旨を記載した募集資金用途変更の公告が発表された。

方大炭素は、2013年6月に非公開により特定者向けに株を発行した資金18億円で、年産10万トンの石油系ニードルコークス製造事業と年間3万トン特殊黒鉛製造・加工事業を行う予定であった。しかし、2016年7月に10万トンの石油系ニードルコークス事業を取りやめ、その資金の一部で、日鉄ケミカル&マテリアル株式会社（以下、「日鉄ケミカル&マテリアル」という）傘下の株式会社シーケム（以下、「シーケム」という）の現地会社「喜科墨（江蘇）針状焦科技有限公司（以下、シーケム（江蘇）という）の株（全体の51%）を取得した。

今般、Koppers（江蘇）炭素化工社の株の購入資金もその残りの資金を充てることになり、募集資金用途変更の公告を発表した。

Koppers（江蘇）炭素化工社の株を買収する企業は2社で、そのうちの一方の方大炭素は5,000万米ドルで、株主の46.73%、もう一方の日鉄ケミカル&マテリアルは5,700万米ドルで、株主の53.27%を占める。

方大炭素は戦略的な買収を通じてコールタール利用の上流への産業チェーンを拡大し、特殊鋼、UHP黒鉛電極、人造負極材料、石炭系ニードルコークス、及びコールタール処理を含めた上下流一体の産業チェーンを構築することになった。

特に、方大炭素は、主要製品であるUHP黒鉛電極の原料である高品質ニードルコークスの生産に必要な軟ピッチの品質を自身でコントロールできる体制となり、また、日鉄ケミカル&マテリアルの支援も得られることから、他社に比べて市場競争力や収益性の点で有利になる可能性が出てきた。

そもそも、これらの一連の事業は、2012年に、中国江蘇省邳州(Pi Zhou)市経済開発区(右

図参照) で日米中の枠組みで始まった。

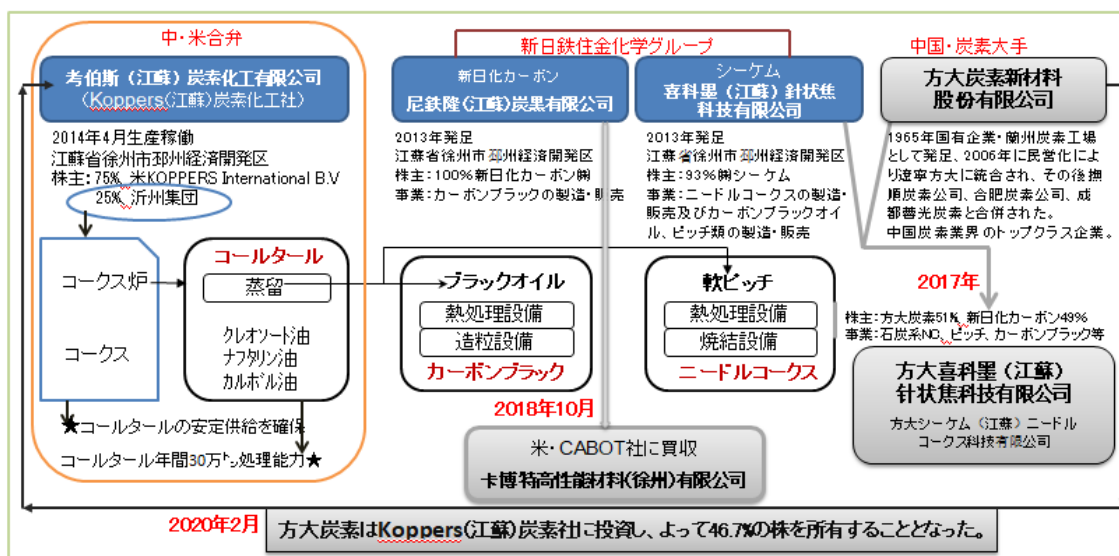
その年に、新日鉄住金化学株式会社 (現日鉄ケミカル&マテリアル) とコールタール蒸留の世界最大手米 Koppers が戦略提携し、中長期的に成長が見込まれる中国市場での需要増に応えるために、カーボンブラックやニードルコークスといった化学製品の製造・販売拠点を中国に新設すると発表した。



江蘇省邳州(Pi Zhou)市経済開発区は、
当時はコールタールを安定調達できる
豊富な原料産地で、また連雲港市まで約 130 km のインフラ条件の良いところであった。

江蘇省邳州市経済開発区位置図
(看板は米 1 社、日本 2 社のロゴ)

下図に、米・日・中の三カ国企業の当初からの事業枠組の変遷をまとめた。戦略提携は、コールタール原料の処理から製品までの一貫体制で、それぞれ特徴ある企業が担うスキームで始まった。



出典：CMI がニュース報道、関連会社 HP 等の情報を整理し作成。

図中、左側の中・米合弁企業は、中国側は江蘇省邳州・沂州集団 (Yizhou Group) 出資率 25%、米国側は Koppers 社出資率 75% で、年間 30 万トンのコールタールを蒸留する設備能力を有している。蒸留製品の一部はクレオソート油、ナフタリン油、カルボル油の自社生産に利用されるが、大半は新日鉄住金化学 (現、日鉄ケミカル&マテリアル) グループ

プの現地の2つ会社に提供された。

日鉄ケミカル&マテリアル傘下の現地会社、尼鉄隆（江蘇）炭黒有限公司」（以下、尼鉄隆（江蘇）という）は、年産5万トンのカーボンブラックを、また、同じ傘下のシーケム（江蘇）は年産6万トンのニードルコークスを生産する計画であった。

一方、方大炭素は甘肅省蘭州市に本社をおき、1965年国有企業・蘭州炭素工場として発足し、2006年には民営化により遼寧方大に統合された。

現在、傘下には合肥炭素公司、成都炭素公司、蓉光炭素公司、撫順炭素公司、方大ハイテクニュー、江城炭素繊維公司等の主要企業を有し、主要製品は黒鉛電極、高炉炭素レンガ、炭素新材料等で、中国炭素業界のトップクラス企業である。

方大炭素は、2012年に遼寧省葫蘆島市で、先に述べた石油系ニードルコークス製造の事業を企画し特定者向けの株発行で資金を調達した。当時、中国国内には、ニードルコークス生産会社は3社あったが、いずれも、熱膨張、性状、及び粒度などで多くの技術課題を抱え、UHP黒鉛電極には使えない原料であった。

2015年12月に方大炭素は、シーケム（江蘇）と「合弁事業意向書」（中国語：合資意向書）を締結した。

2016年7月には石油系ニードルコークスの製造事業を取りやめ、調達資金の内の40,000万元人民元も含めた57,820万元（2016年7月外貨レートで換算、約8,700万米ドル）でシーケム（江蘇）の51%株を所有し、2017年10月には社名も「方大喜科墨（江蘇）針状焦科技有限公司」に変更した。

合意する前¹⁾

株主名称	出資額 (億人民元)	割合 (%)
株シーケム	11.5	100

合意後の持株割合²⁾

株主名称	出資額 (億人民元)	割合 (%)
方大炭素	6.018	51
株シーケム	5.782	49
合計	11.8	100

出所：方大炭素公告、2016-12-30³⁾

一方、尼鉄隆（江蘇）のカーボンブラックの生産はプラントの稼働率と設備腐食等の問題により、生産維持が困難となり、2018年10月米国CABOT社に買収された。米CABOTは買収と改造費用で5,000万米ドルを支出し、2年かけてプラントの修繕・技術改造を行い、社名もCABOT高性能材料（徐州）有限公司とした。

出典：ICC 鑫權資訊、2020-02-19、熱備資訊（HOTBAK SEARCH）等のネット情報を整理して作成。